

(2) 施設調査の結果概要

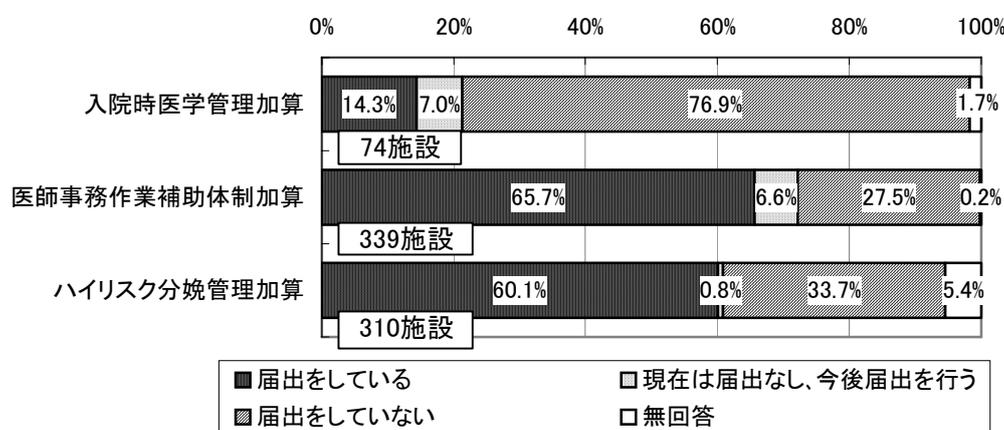
【調査対象等】

調査対象：「入院時医学管理加算」、「医師事務作業補助体制加算」、「ハイリスク分娩管理加算」のいずれかの施設基準の届出をしている、すべて病院（1,151 施設）
 回答数：516 件
 回答者：施設の管理者

①施設基準の届出状況

施設基準の届出状況についてみると、「入院時医学管理加算」の「届出をしている」という施設は 14.3% (74 施設)、「医師事務作業補助体制加算」の「届出をしている」施設は 65.7% (339 施設)、「ハイリスク分娩管理加算」の「届出をしている」施設は 60.1% (310 施設)であった。

図表 2 施設基準の届出状況 (n=516)



施設基準届出状況別施設数についてみると、「入院時医学管理加算」、「医師事務作業補助体制加算」及び「ハイリスク分娩管理加算」の3つの施設基準のいずれも届出をしているという医療機関は9.5%（49施設）であった。

最も多かったのは「医師事務作業補助体制加算のみ届出あり」（37.2%、192施設）であり、次いで「ハイリスク分娩管理加算のみ届出あり」（31.8%、164施設）、「医師事務作業補助体制加算とハイリスク分娩管理加算の届出あり」（16.7%、86施設）となった。「入院時医学管理加算のみ届出あり」は0.4%（2施設）と最も少なかった。

図表 3 施設基準届出状況別施設数

	施設数	構成割合
すべての施設基準の届出あり	49	9.5%
（入院時医学管理加算＋医師事務作業補助体制加算）届出あり	12	2.3%
（入院時医学管理加算＋ハイリスク分娩管理加算）届出あり	11	2.1%
（医師事務作業補助体制加算＋ハイリスク分娩管理加算）届出あり	86	16.7%
入院時医学管理加算のみ届出あり	2	0.4%
医師事務作業補助体制加算のみ届出あり	192	37.2%
ハイリスク分娩管理加算のみ届出あり	164	31.8%
合計	516	100.0%

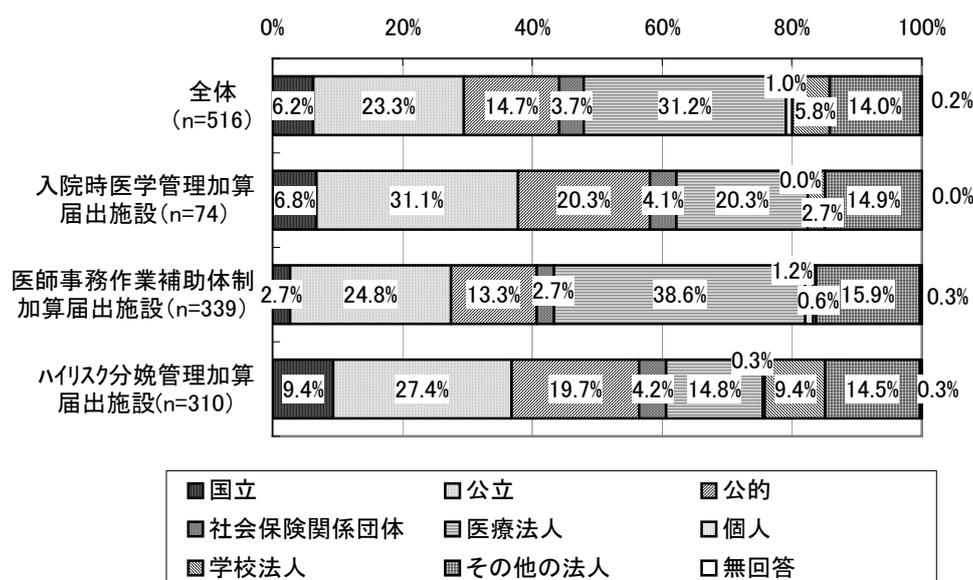
②施設の属性

1) 開設主体

開設主体についてみると、全体では「医療法人」(31.2%)が最も多く、次いで「公立」(23.3%)、「公的」(14.7%)となった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「公立」(31.1%)が最も多く、次いで「公的」と「医療法人」(いずれも20.3%)となった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「医療法人」(38.6%)が最も多く、次いで「公立」(24.8%)、「その他の法人」(15.9%)となった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「公立」(27.4%)が最も多く、次いで「公的」(19.7%)、「医療法人」(14.8%)となった。

図表 4 開設主体



(注) 複数の施設基準の届出を行っている施設があるため、各施設基準のサンプル数の和は全体のサンプル数と一致しない。以下、同様。

※参考：開設主体の内訳

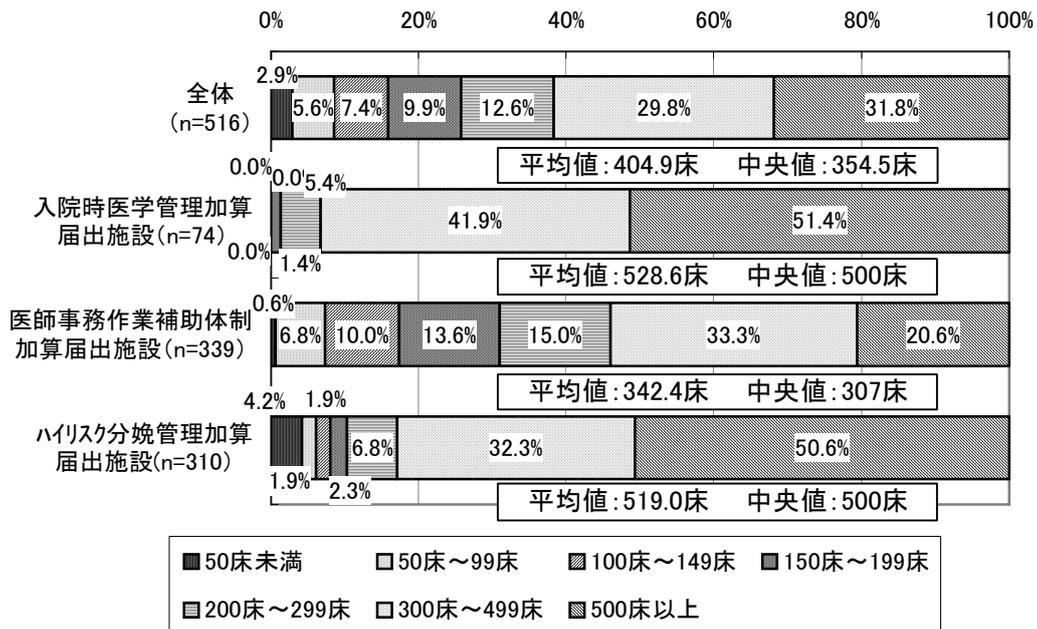
国立	厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、その他(国)
公立	都道府県、市町村、地方独立行政法人
公的	日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会
社会保険関係団体	全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合
その他の法人	公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

2) 許可病床数

許可病床数についてみると、全体では「500床以上」(31.8%)が最も多く、次いで「300床～499床」(29.8%)、「200床～299床」(12.6%)となった。なお、平均は404.9床(中央値354.5)であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「500床以上」(51.4%)が最も多く、次いで「300床～499床」(41.9%)となっており、許可病床数の平均は528.6床(中央値500)と大規模の病院が多かった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「300床～499床」(33.3%)が最も多く、次いで「500床以上」(20.6%)となり、許可病床数の平均は342.4床(中央値307)であった。「入院時医学管理加算」及び「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設と比較すると、大規模病院の割合が低かった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「500床以上」(50.6%)が最も多く、次いで「300床～499床」(32.3%)となり、許可病床数の平均は519.0床(中央値500)と大規模の病院が多かった。

図表 5 許可病床数

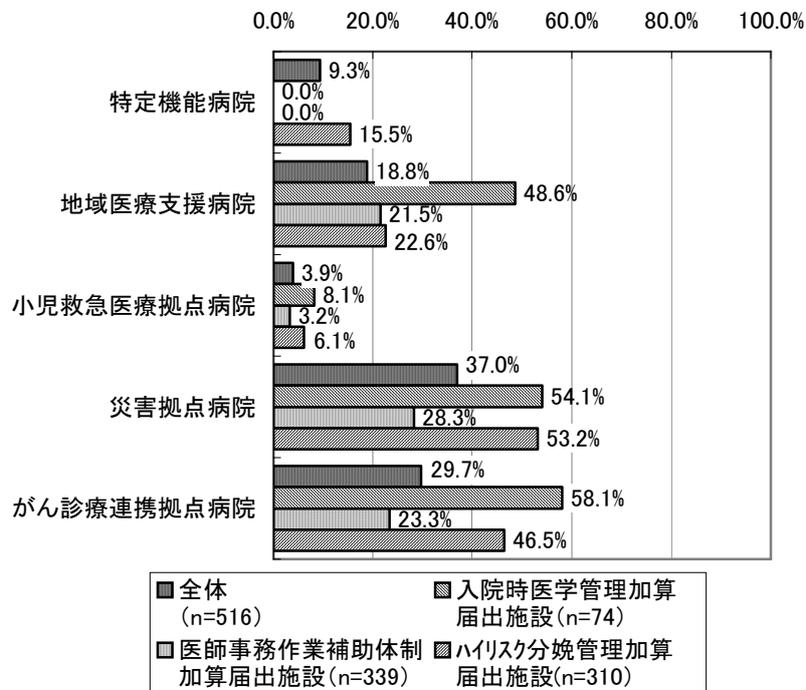


3) 病院種別

病院の種別についてみると、「特定機能病院」が 9.3%、「地域医療支援病院」が 18.8%、「小児救急医療拠点病院」が 3.9%、「災害拠点病院」が 37.0%、「がん診療連携拠点病院」が 29.7%であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では、「地域医療支援病院」が 48.6%、「災害拠点病院」が 54.1%、「がん診療連携期病院」が 58.1%と指定を受けている割合が高かった。また、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では、「災害拠点病院」が 53.2%、「がん診療連携拠点病院」が 46.5%と指定を受けている割合が高かった。

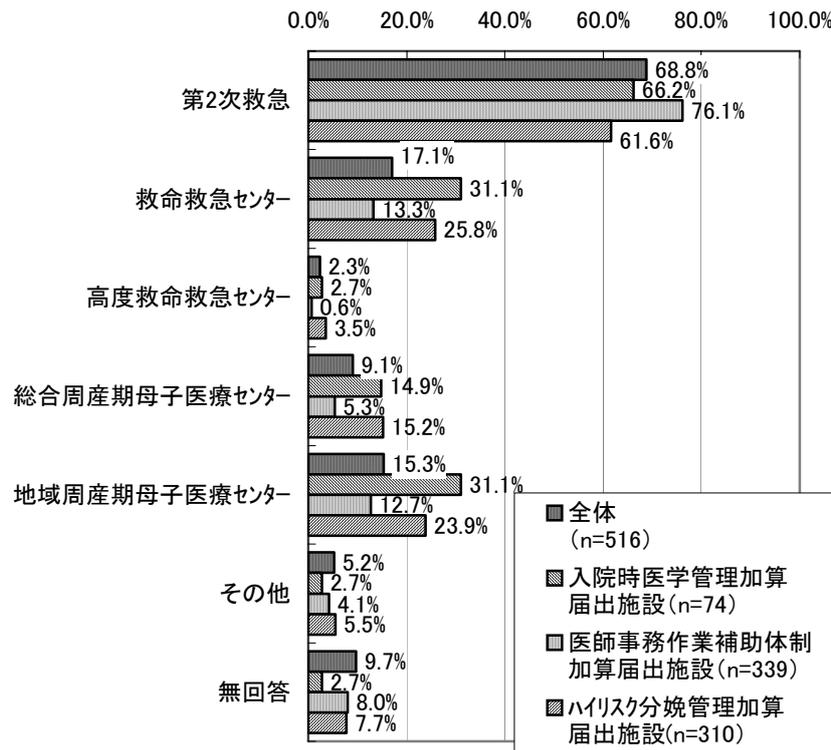
図表 6 病院種別（複数回答）



4) 救急医療体制

救急医療体制についてみると、全体では「第2次救急」(68.8%)が最も多く、次いで「救急救命センター」(17.1%)、「地域周産期母子医療センター」(15.3%)、「総合周産期母子医療センター」(9.1%)、「高度救命救急センター」(2.3%)の順であった。

図表 7 救急医療体制（複数回答）

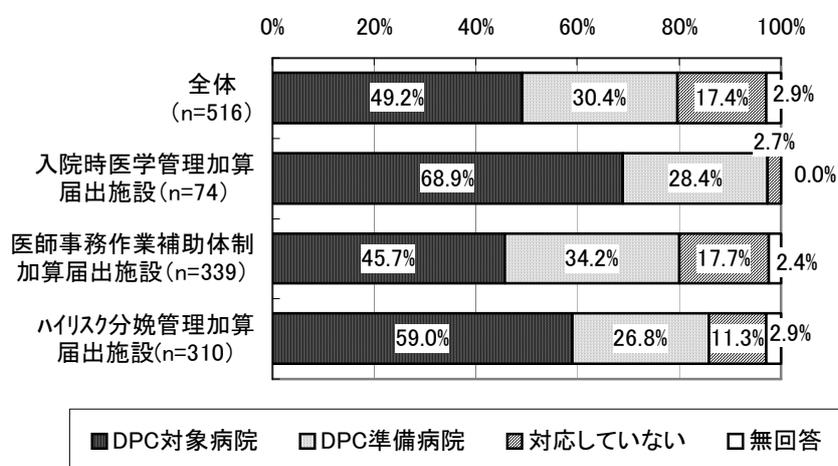


5) DPC 対応

DPC の対応状況についてみると、全体では「DPC 対象病院」が 49.2%、「DPC 準備病院」が 30.4%、「対応していない」が 17.4%であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「DPC 対象病院」が 68.9%と高かった。また、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設でも「DPC 対象病院」が 59.0%と高かった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では、他の 2つの加算届出施設と比較すると、「DPC 対象病院」の割合は 45.7%と低かった。

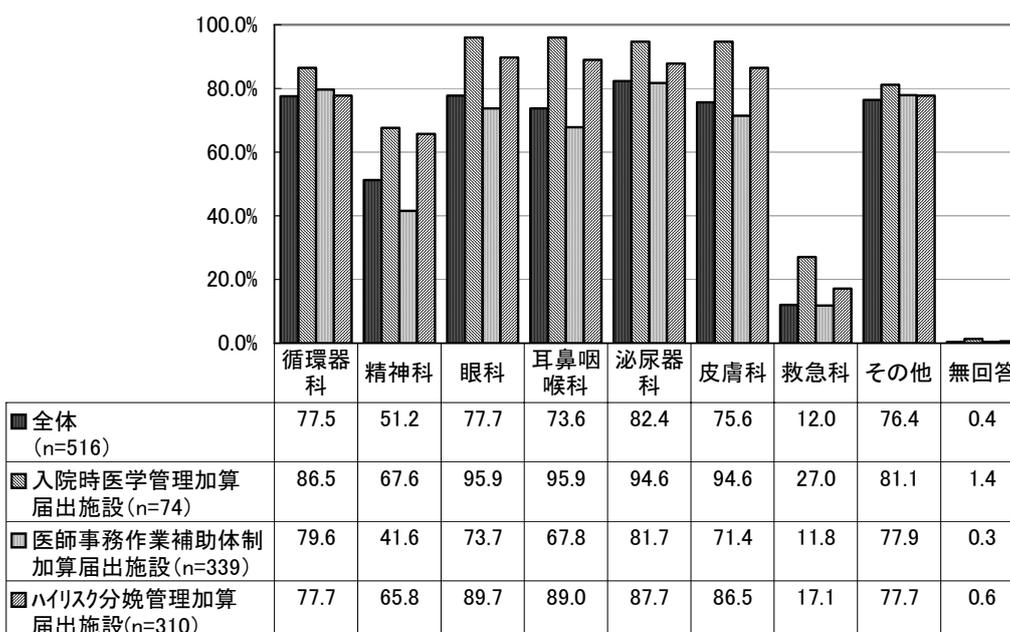
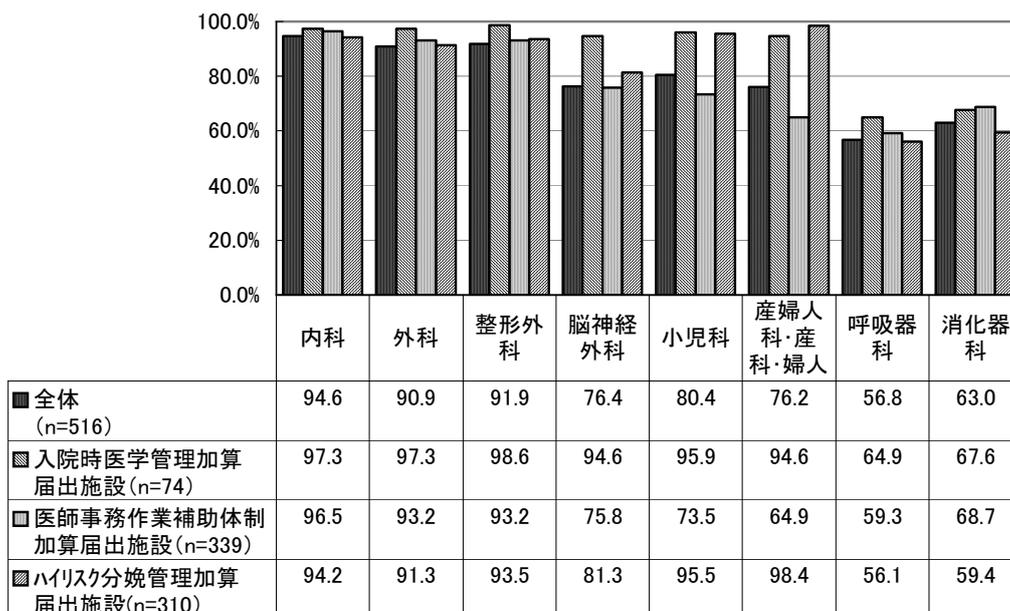
図表 8 DPC 対応



6) 標榜している診療科

標榜している診療科についてみると、全体では「内科」(94.6%)が最も多く、次いで「整形外科」(91.9%)、「外科」(90.9%)、「泌尿器科」(82.4%)、「小児科」(80.4%)となった。

図表 9 標榜している診療科 (複数回答)

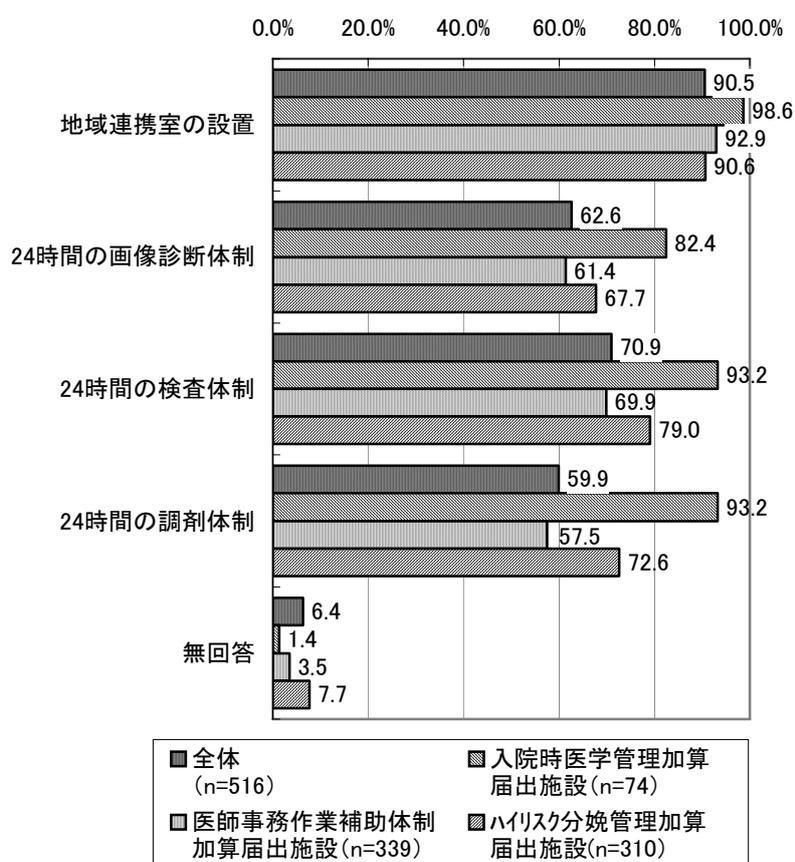


7) 24 時間の診療体制等

24 時間の診療体制等についてみると、「地域連携室の設置」があるという回答は 90.5% であった。この他、「24 時間の画像診断体制」があるという回答は 62.6%、「24 時間の検査体制」は 70.9%、「24 時間の調剤体制」は 59.9% であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では、「全体」や他の 2 つの施設基準の届出施設と比較して、いずれの診療体制等においても回答割合が高かった。

図表 10 24 時間の診療体制等（複数回答）

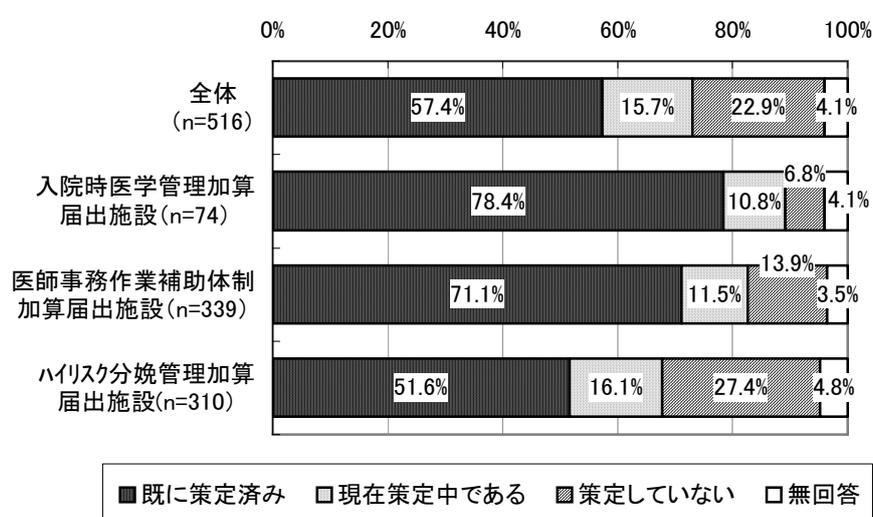


8) 勤務医負担軽減対策計画の策定状況

勤務医負担軽減対策計画の策定状況についてみると、全体では「既に策定済み」が 57.4%、「現在策定中である」が 15.7%、「策定していない」が 22.9%であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「既に策定済み」が 78.4%であり、「現在策定中である」が 10.8%、「策定していない」が 6.8%となっており、他の 2 つの施設基準の届出施設と比較すると、「既に策定済み」の割合が高かった。

図表 11 勤務医負担軽減対策計画の策定状況

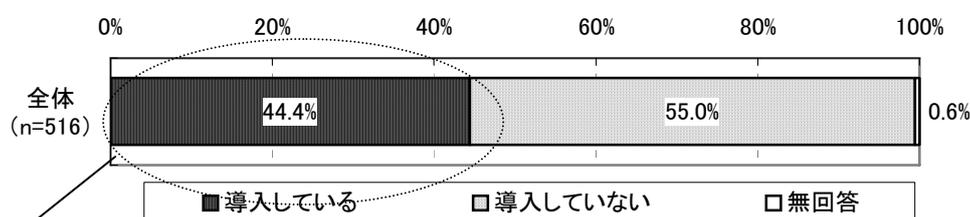


9) 診療録電子カルテの導入状況

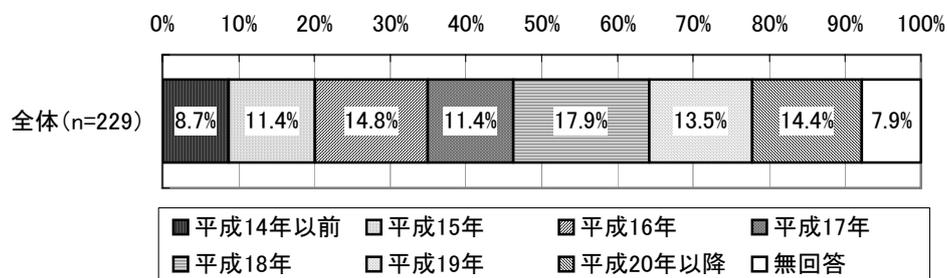
診療録電子カルテの導入状況についてみると、「導入している」が 44.4%、「導入していない」が 55.0%であった。

診療録電子カルテを「導入している」と回答した 229 施設における導入時期についてみると、「平成 18 年」(17.9%) が最も多く、次いで「平成 16 年」(14.8%)、「平成 20 年以降」(14.4%)、「平成 19 年」(13.5%) であり、ばらつきがみられた。

図表 12 診療録電子カルテの導入状況



図表 13 診療録電子カルテの導入時期



10) 平均在院日数、紹介率、逆紹介率

病院全体の平均在院日数についてみると、平成19年10月が平均18.7日、平成20年10月が18.4日と0.3日の短縮であったが、中央値でみると、15.6日から14.9日と0.7日短縮した。

図表 14 病院全体の平均在院日数

(単位：日)

			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	n=501	19年10月	18.7	23.0	402.0	4.9	15.6
	n=501	20年10月	18.4	23.1	402.0	4.1	14.9
入院時医学管理加算届出施設	n=75	19年10月	15.1	3.1	23.6	8.7	14.6
	n=75	20年10月	14.7	3.0	26.6	8.6	14.3
医師事務作業補助体制加算届出施設	n=328	19年10月	20.4	28.0	402.0	6.9	15.8
	n=328	20年10月	20.1	28.1	402.0	6.7	15.1
ハイリスク分娩管理加算届出施設	n=307	19年10月	16.1	17.7	313.6	4.9	14.6
	n=307	20年10月	15.7	17.5	308.5	4.1	14.4

(注)平成19年10月及び平成20年10月の両時点について記載があったものを有効回答として集計した。

一般病棟の平均在院日数についてみると、平成19年10月が平均15.7日、平成20年10月が15.3日と0.4日の短縮であったが、中央値でみると、14.9日から14.3日と0.6日短縮した。

図表 15 一般病棟の平均在院日数

(単位：日)

			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	n=502	19年10月	15.7	13.8	313.6	4.9	14.9
	n=502	20年10月	15.3	13.6	308.5	4.1	14.3
入院時医学管理加算届出施設	n=71	19年10月	14.5	2.6	23.3	8.7	14.3
	n=71	20年10月	14.0	2.5	22.2	8.6	13.8
医師事務作業補助体制加算届出施設	n=328	19年10月	16.3	16.9	313.6	6.9	15.0
	n=328	20年10月	15.9	16.6	308.5	6.7	14.4
ハイリスク分娩管理加算届出施設	n=303	19年10月	15.3	17.5	313.6	4.9	14.2
	n=303	20年10月	14.9	17.2	308.5	4.1	14.0

(注)・平成19年10月及び平成20年10月の両時点について記載があったものを有効回答として集計した。

・最大値は障害者施設等入院基本料等又は特殊疾患病棟入院料等病棟の特定入院料を算定する病棟を有する施設。

紹介率についてみると、全体では平成 19 年 10 月時点では平均 43.0%であったのが、平成 20 年 10 月時点では 44.5%と上昇している。また、中央値でも、40.8%から 43.0%と上昇している。

平成 20 年 10 月時点の紹介率についてみると、「入院時医学管理加算」の届出施設では、平均 57.2%（標準偏差 18.2、中央値 58.5）、「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では平均 42.4%（標準偏差 22.3、中央値 40.9）、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では平均 50.0%（標準偏差 20.9、中央値 51.3）となっており、入院時医学管理加算の届出施設において特に紹介率が高い結果となった。

図表 16 紹介率

(単位：%)

			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	n=451	19 年 10 月	43.0	21.7	100.0	0.0	40.8
	n=451	20 年 10 月	44.5	22.4	100.0	0.0	43.0
入院時医学管理加算届出施設	n=67	19 年 10 月	56.0	18.1	97.5	14.5	55.1
	n=67	20 年 10 月	57.2	18.2	90.1	18.8	58.5
医師事務作業補助体制加算届出施設	n=294	19 年 10 月	41.1	21.9	100.0	0.0	39.2
	n=294	20 年 10 月	42.4	22.3	100.0	0.0	40.9
ハイリスク分娩管理加算届出施設	n=282	19 年 10 月	48.1	20.3	100.0	0.0	48.2
	n=282	20 年 10 月	50.0	20.9	100.0	0.0	51.3

逆紹介率についてみると、全体では平成 19 年 10 月時点では平均 31.1%であったのが、平成 20 年 10 月時点では 34.3%と上昇している。また、中央値でも、26.6%から 29.9%と上昇している。特に、「入院時医学管理加算」の届出施設では、平成 19 年 10 月時点では平均 43.2%（標準偏差 22.1、中央値 44.2）であったのが平成 20 年 10 月時点では、平均 49.3%（標準偏差 24.8、中央値 48.2）と大きく上昇している。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では、平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月時点で 30%台であり、「入院時医学管理加算」の届出施設と比較すると、逆紹介率の水準は高くはないものの、平成 19 年 10 月から平成 20 年 10 月にかけての 1 年間で向上している。

図表 17 逆紹介率

(単位：%)

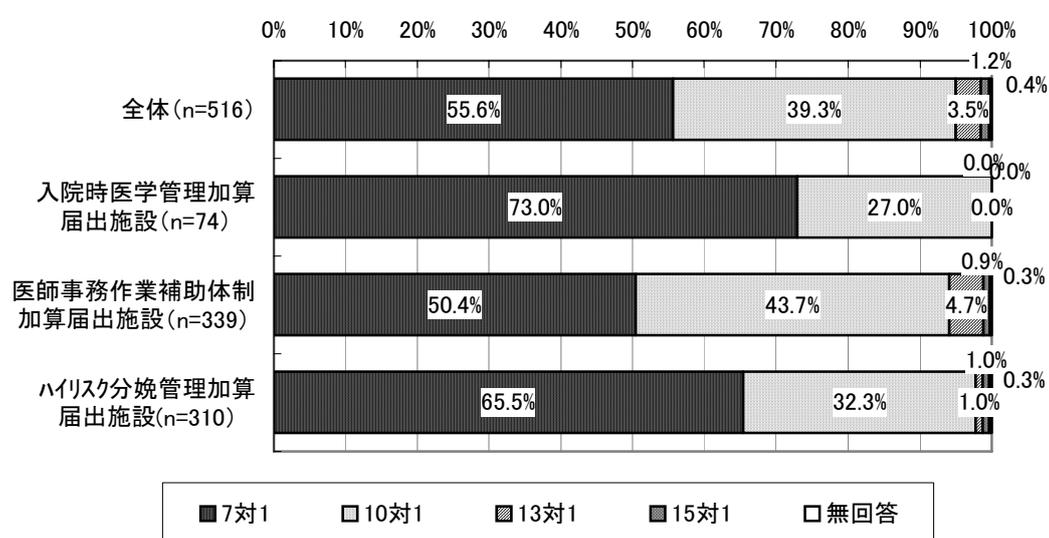
			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	n=417	19 年 10 月	31.1	22.0	140.4	0.0	26.6
	n=417	20 年 10 月	34.3	23.2	117.9	0.0	29.9
入院時医学管理加算届出施設	n=64	19 年 10 月	43.2	22.1	100.0	5.1	44.2
	n=64	20 年 10 月	49.3	24.8	117.9	4.9	48.2
医師事務作業補助体制加算届出施設	n=267	19 年 10 月	31.9	23.9	140.4	0.0	26.5
	n=267	20 年 10 月	35.1	24.8	117.9	0.0	29.4
ハイリスク分娩管理加算届出施設	n=267	19 年 10 月	32.7	19.6	100.3	0.0	30.1
	n=267	20 年 10 月	37.1	22.4	117.9	0.0	34.4

11) 一般病棟の入院基本料区分

一般病棟の入院基本料区分についてみると、全体では「7対1」が55.6%、「10対1」が39.3%、「13対1」が3.5%であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「7対1」が73.0%、「10対1」が27.0%、「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「7対1」が50.4%、「10対1」が43.7%、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「7対1」が65.5%、「10対1」が32.3%であった。

図表 18 一般病棟の入院基本料区分



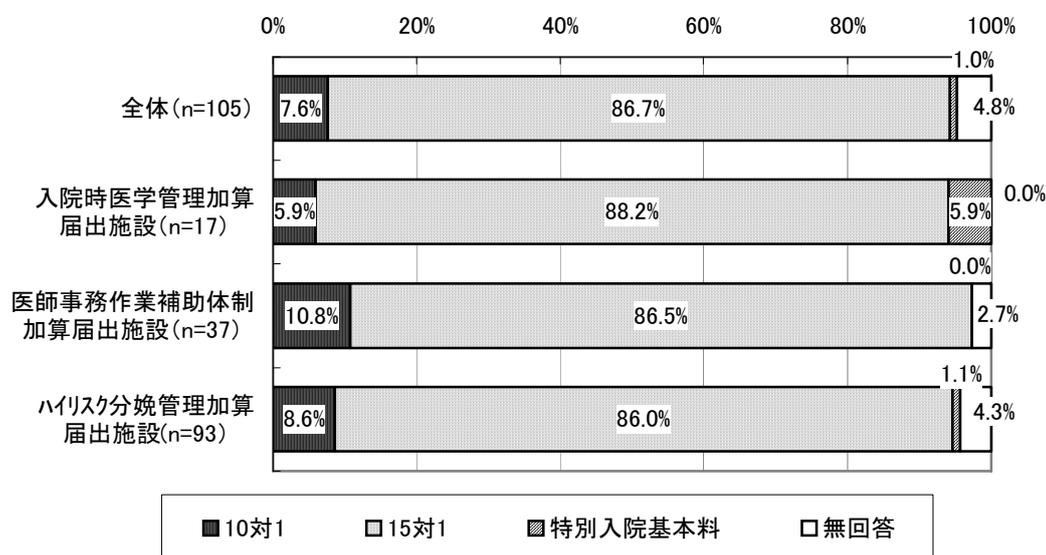
(注) 「特別入院基本料」の施設は該当がなかった。

12) 精神病棟の入院基本料区分

精神病床を有する 105 施設について精神病棟の入院基本料区分についてみると、全体では「10 対 1」が 7.6%、「15 対 1」が 86.7%であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設（17 施設）では、「10 対 1」が 5.9%、「15 対 1」が 88.2%、「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「10 対 1」が 10.8%、「15 対 1」が 86.5%、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「10 対 1」が 8.6%、「15 対 1」が 86.0%であった。

図表 19 精神病棟の入院基本料区分



(注) ・精神病床を有する 105 施設を対象とした。
 ・「18 対 1」「20 対 1」は該当がなかった。

13) 職員数

平成20年10月における1施設あたりの職員数（常勤換算）についてみると、「医師」は平均98.5人（標準偏差120.1、中央値56.9）、「歯科医師」は3.3人（標準偏差13.7、中央値0.0）、「看護師・保健師」は平均287.2人（標準偏差223.8、中央値233.5）、「助産師」は平均14.2人（標準偏差16.1、中央値12.0）、「准看護師」の平均は15.9人（標準偏差15.7、中央値11.3）、「薬剤師」は平均16.1人（標準偏差13.2、中央値12.8）、「技師」は平均60.2人（標準偏差52.8、中央値49.1）であった。

医師、看護師・保健師を始め、助産師、薬剤師、技師の人数（常勤換算）については、平均値・中央値ともに平成19年10月時点と比較すると増加となった。

図表 20 職員数（常勤換算）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
平成 19 年 10 月	医師	95.2	115.8	806.6	3.8	55.1
	歯科医師	3.3	14.1	197.8	0.0	0.0
	看護師・保健師	277.7	214.8	1,072.0	1.0	227.2
	助産師	13.3	15.0	181.6	0.0	11.0
	准看護師	16.8	16.5	99.4	0.0	12.2
	薬剤師	15.7	12.9	83.0	1.0	12.4
	技師	58.0	51.4	443.0	0.0	48.0
	その他	115.0	92.0	766.9	0.0	94.3
	合計	595.0	453.6	3,048.0	44.2	482.1
平成 20 年 10 月	医師	98.5	120.1	799.6	3.8	56.9
	歯科医師	3.3	13.7	192.8	0.0	0.0
	看護師・保健師	287.2	223.8	1,074.1	1.0	233.5
	助産師	14.2	16.1	198.6	0.0	12.0
	准看護師	15.9	15.7	96.4	0.0	11.3
	薬剤師	16.1	13.2	83.4	1.0	12.8
	技師	60.2	52.8	438.0	0.0	49.1
	その他	118.4	94.4	889.1	0.0	98.5
	合計	613.8	470.5	3,060.0	46.7	485.5

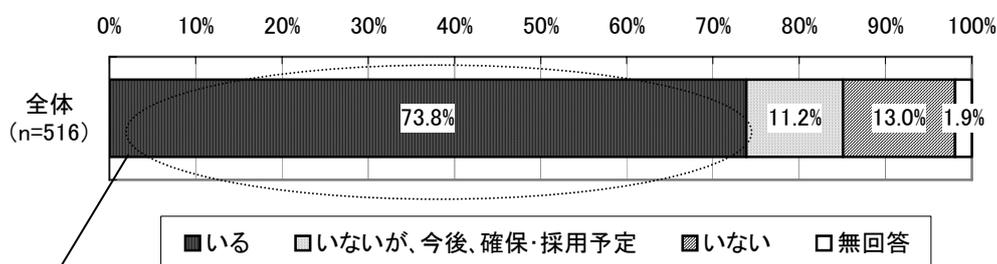
(注)平成19年10月及び平成20年10月の2月について欠損値のない504施設を対象に、集計を行った。

14) 医師事務作業補助者

「医師事務作業補助体制加算」の届出状況の如何にかかわらず、医師事務作業補助者の有無についてたずねたところ、「(医師事務作業補助者が) いる」という回答が 73.8%、「(医師事務作業補助者は) いないが、今後、確保・採用予定」が 11.2%、「(医師事務作業補助者は) いない」が 13.0%であった。

「(医師事務作業補助者が) いる」と回答した施設における医師事務作業補助者数（常勤換算）についてみると、平均は 6.5 人（標準偏差 8.0、中央値 4.0）であった。

図表 21 医師事務作業補助者の有無



図表 22 医師事務作業補助者数（常勤換算）

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師事務作業補助者（人）	6.5	8.0	82.0	0.5	4.0

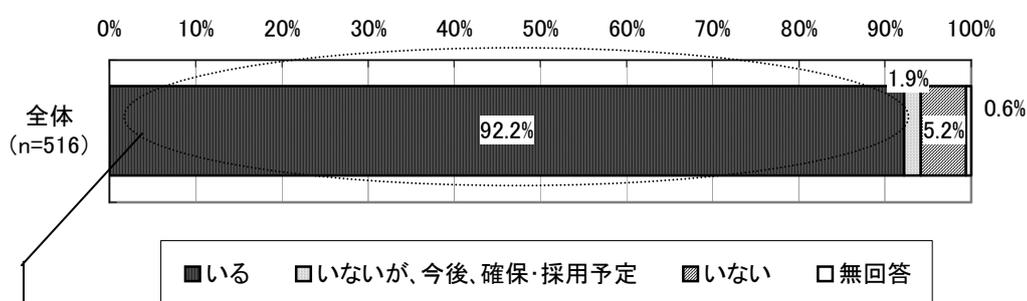
（注）医師事務作業補助者がいるという回答があった 381 件のうち、人数が不明だった 17 件を除く 364 件を対象に集計を行った。

15) MSW（医療ソーシャルワーカー）

MSW（医療ソーシャルワーカー）の有無についてみると、「(MSW（医療ソーシャルワーカー）が) いる」が 92.2%、「(MSW（医療ソーシャルワーカー）は) いないが、今後、確保・採用予定」が 1.9%、「(MSW（医療ソーシャルワーカー）は) いない」が 5.2%であった。

「(MSW（医療ソーシャルワーカー）が) いる」と回答した施設における MSW（医療ソーシャルワーカー）の人数（常勤換算）についてみると、平均は 3.0 人（標準偏差 2.0、中央値 2.9）であった。

図表 23 MSW（医療ソーシャルワーカー）の有無



図表 24 MSW（医療ソーシャルワーカー）の人数（常勤換算）

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
MSW（人）	3.0	2.0	18.7	0.5	2.9

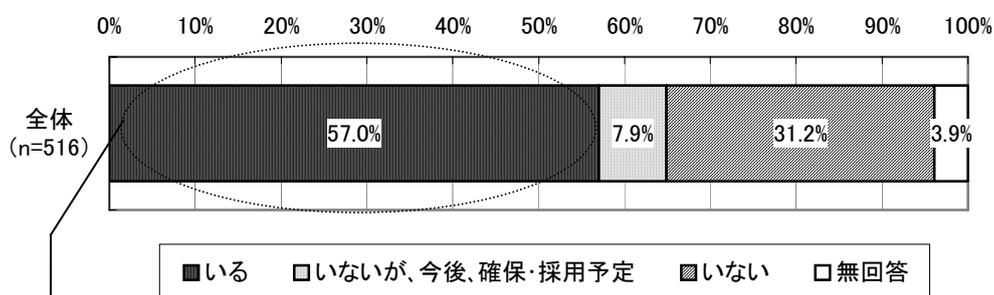
（注）MSW がいるという回答があった 476 件のうち、人数が不明だった 16 件を除く 460 件を対象に集計を行った。

16) 病院ボランティア

病院ボランティアの有無についてみると、「(病院ボランティアが) いる」が 57.0%、「(病院ボランティアは) いないが、今後、確保・採用予定」が 7.9%、「(病院ボランティアは) いない」が 31.2%であった。

「(病院ボランティアが) いる」と回答した施設における病院ボランティアの人数（実人数）についてみると、平均は 39.0 人（標準偏差 51.5、中央値 21.0）であった。

図表 25 病院ボランティアの有無



図表 26 病院ボランティアの人数（実人数）

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
病院ボランティア（人）	39.0	51.5	370.0	0.2	21.0

（注）病院ボランティアがいるという回答があった 294 件のうち、人数が不明だった 32 件を除く 262 件を対象に集計を行った。

②患者数等

1) 1か月の外来患者数

平成20年10月1か月間の外来患者数についてみると、1施設あたりの「外来患者数（初診）」の平均は2,053.9人（標準偏差1,395.8、中央値1,760.0）、「外来患者延べ人数（再診）」の平均は16,777.9人（標準偏差12,690.3、中央値14,338.0）であり、平成19年10月時点と比較すると、初診・再診ともに外来患者数は減少となった。

また、平成20年10月1か月間の「救急搬送による外来患者延べ人数」は242.2人（標準偏差417.7、中央値110.0）であり、平成19年10月時点と比較すると12.4人減少している。全外来患者数（外来患者数（初診）＋外来患者延べ人数（再診））に占める、この「救急搬送による外来患者延べ人数」の割合（⑤）をみると、平成19年10月及び平成20年10月のいずれも1.3%となり、変化はなかった。

さらに、平成20年10月1か月間の「選定療養の実費徴収を行った患者数」をみると、平均は548.3人（標準偏差576.2、中央値490.5）であり、平成19年10月と比較すると31.1人の減少となった。「外来患者数（初診）」に占める、この「選定療養の実費徴収を行った患者数」の割合（⑥）をみると、平成19年10月では27.1%であったのが、平成20年10月では26.7%とやや低下している。

図表 27 1か月の外来患者数

(単位：人)

			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
①外来患者数（初診）	n=479	19年10月	2,139.0	1,441.7	10,386.0	81.0	1,854.0
	n=479	20年10月	2,053.9	1,395.8	10,861.0	82.0	1,760.0
②外来患者延べ人数（再診）	n=479	19年10月	17,096.0	12,814.4	92,849.0	104.0	14,466.0
	n=479	20年10月	16,777.9	12,690.3	92,487.0	128.0	14,338.0
③救急搬送による外来患者延べ人数	n=479	19年10月	254.6	448.4	4,603.0	0.0	115.0
	n=479	20年10月	242.2	417.7	4,434.0	0.0	110.0
④選定療養の実費徴収を行った患者数	n=450	19年10月	579.4	606.9	4,119.0	0.0	539.0
	n=450	20年10月	548.3	576.2	3,648.0	0.0	490.5
⑤③／（①＋②）	n=479	19年10月	1.3%	—	—	—	—
	n=479	20年10月	1.3%	—	—	—	—
⑥④／①	n=450	19年10月	27.1%	—	—	—	—
	n=450	20年10月	26.7%	—	—	—	—

(注) 外来患者数（初診）、外来患者延べ人数（再診）、救急搬送による外来患者延べ人数について、平成19年10月及び平成20年10月について回答が得られた479件を対象に集計を行った。

2) 1か月の入院患者数

平成20年10月1か月間の入院患者数についてみると、1施設あたりの「新規入院患者数」は平均634.7人（標準偏差461.0、中央値549.0）であり、「救急搬送により緊急入院した患者数」は平均96.1人（標準偏差90.5、中央値67.0）であった。平成19年10月と比較すると、平均値ベースではいずれも増加となった。

また、平成20年10月1か月間の退院患者数についてみると、1施設あたりの「退院患者数」は平均635.3人（標準偏差459.0、中央値551.0）、「診療情報提供料を算定した退院患者数」は平均137.0人（標準偏差152.2、中央値89.0）、「転帰が治癒であり通院の必要のない退院患者数」は平均57.8人（標準偏差107.2、中央値20.0）であった。平成19年10月と比較すると、いずれも増加となった。特に「転帰が治癒であり通院の必要のない退院患者数」の増加は大きく、退院患者数に占める割合をみても、平成19年10月には7.2%であったのが平成20年10月には9.1%と上昇している。

さらに、平成20年10月1か月間における「月末在院患者数」についてみると、平均313.2人（標準偏差213.7、中央値271.0）となっており、平成19年10月と比較するとやや減少している。

図表 28 1か月の入院患者数等

(単位：人)

			平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
①新規入院患者数	n=488	19年10月	631.4	457.6	2,595.0	38.0	546.0
	n=488	20年10月	634.7	461.0	2,619.0	38.0	549.0
②救急搬送により緊急入院した患者数	n=444	19年10月	95.5	89.8	609.0	0.0	68.0
	n=444	20年10月	96.1	90.5	580.0	0.0	67.0
③退院患者数	n=488	19年10月	611.3	438.8	2,501.0	19.2	537.0
	n=488	20年10月	635.3	459.0	2,592.0	42.0	551.0
④診療情報提供料を算定した退院患者数	n=387	19年10月	122.2	135.6	1,014.0	0.0	79.0
	n=387	20年10月	137.0	152.2	1,027.0	0.0	89.0
⑤転帰が治癒であり通院の必要のない退院患者数	n=349	19年10月	44.2	91.4	804.0	0.0	19.0
	n=349	20年10月	57.8	107.2	743.0	0.0	20.0
⑥月末在院患者数	n=488	19年10月	320.2	218.8	1,183.0	8.0	271.5
	n=488	20年10月	313.2	213.7	1,085.0	17.0	271.0

(注) 新規入院患者数、退院患者数、月末在院患者数について、平成19年10月及び平成20年10月分の回答が得られた488件を対象に集計を行った。

③病院勤務医の状況について

1) 常勤医師数

平成 20 年 10 月における常勤医師の 1 施設あたり平均人数について、診療科別男女別実人数をみると、「病院全体の医師」では「男性」73.6 人、「女性」16.4 人であった。同様に、「内科の医師」では「男性」17.5 人、「女性」3.4 人、「精神科の医師」では「男性」1.7 人、「女性」0.3 人、「小児科の医師」では「男性」4.0 人、「女性」1.5 人、「外科の医師」では「男性」9.4 人、「女性」0.8 人、「脳神経外科の医師」では「男性」2.7 人、「女性」0.2 人、「整形外科の医師」では「男性」5.1 人、「女性」0.2 人、「産科又は産婦人科の医師」では「男性」3.0 人、「女性」1.5 人、「救急科の医師」では「男性」1.8 人、「女性」0.2 人、「その他の医師」では「男性」28.3 人、「女性」8.2 人であった。なお、平成 19 年と比較すると、増加幅は少ないものの増加となった診療科が多く、横這いはあっても減少となった診療科はみられなかった。

図表 29 常勤医師数 1 施設あたり平均人数（診療科別男女別 実人数）

（単位：人）

	平成 19 年 10 月		平成 20 年 10 月	
	男性	女性	男性	女性
病院全体の医師	71.8	15.2	73.6	16.4
内科の医師	17.1	3.2	17.5	3.4
精神科の医師	1.6	0.3	1.7	0.3
小児科の医師	3.9	1.4	4.0	1.5
外科の医師	9.4	0.8	9.4	0.8
脳神経外科の医師	2.7	0.1	2.7	0.2
整形外科の医師	4.9	0.2	5.1	0.2
産科又は産婦人科の医師	2.9	1.4	3.0	1.5
救急科の医師	1.7	0.2	1.8	0.2
その他の医師	27.6	7.6	28.3	8.2

（注）欠損値のない 444 件を対象に集計を行った。

平成 20 年 10 月における非常勤医師（当該施設に週 24 時間以上勤務する非常勤医師）の 1 施設あたり平均人数について、診療科別男女別実人数をみると、「病院全体の医師」では「男性」16.2 人、「女性」6.6 人であった。同様に、「内科の医師」では「男性」3.9 人、「女性」1.3 人、「精神科の医師」では「男性」0.6 人、「女性」0.3 人、「小児科の医師」では「男性」0.8 人、「女性」0.5 人、「外科の医師」では「男性」2.5 人、「女性」0.4 人、「脳神経外科の医師」では「男性」0.5 人、「女性」0.0 人、「整形外科の医師」では「男性」0.9 人、「女性」0.1 人、「産科又は産婦人科の医師」では「男性」0.5 人、「女性」0.5 人、「救急科の医師」では「男性」0.3 人、「女性」0.1 人、「その他の医師」では「男性」6.2 人、「女性」3.4 人であった。なお、平成 19 年と 20 年の間に急激な増減はみられなかった。

図表 30 非常勤医師数 1 施設あたり平均人数（診療科別男女別 実人数）

（単位：人）

	平成 19 年 10 月		平成 20 年 10 月	
	男性	女性	男性	女性
病院全体の医師	16.0	6.2	16.2	6.6
内科の医師	4.0	1.3	3.9	1.3
精神科の医師	0.6	0.3	0.6	0.3
小児科の医師	0.7	0.4	0.8	0.5
外科の医師	2.4	0.4	2.5	0.4
脳神経外科の医師	0.5	0.0	0.5	0.0
整形外科の医師	0.9	0.1	0.9	0.1
産科又は産婦人科の医師	0.4	0.4	0.5	0.5
救急科の医師	0.3	0.1	0.3	0.1
その他の医師	6.1	3.2	6.2	3.4

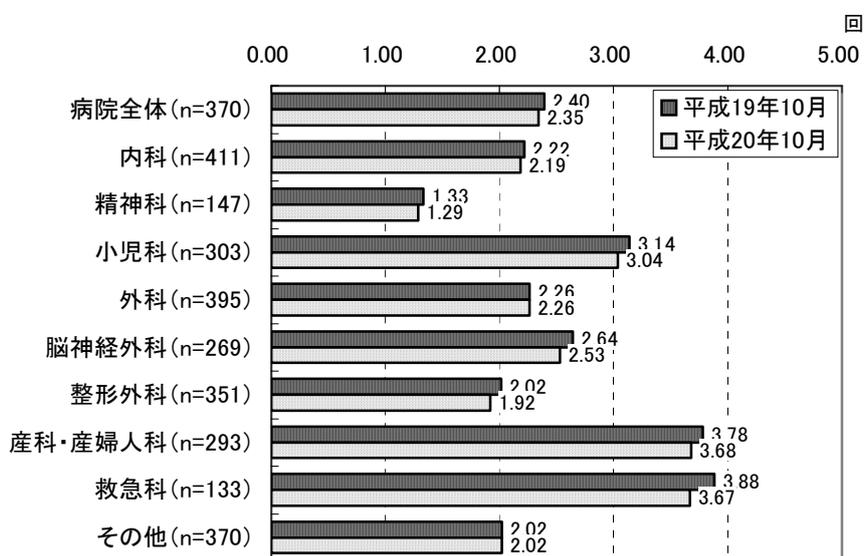
（注）・欠損値のない 288 件を対象に収益を行った。

・本調査では、週 24 時間以上当該施設に勤務する非常勤医師に限定している。

2) 当直回数

平成 20 年 10 月における診療科別常勤医師 1 人あたり月平均当直回数についてみると、「病院全体」では 2.35 回、「内科」では 2.19 回、「精神科」では 1.29 回、「小児科」では 3.04 回、「外科」では 2.26 回、「脳神経外科」では 2.53 回、「整形外科」では 1.92 回、「産科・産婦人科」では 3.68 回、「救急科」では 3.67 回、「その他」では 2.02 回であった。最も多いのが「救急科」で、次いで「産科・産婦人科」、「小児科」となったが、これらでは月平均当直回数が 3 回以上となった。平成 19 年 10 月と比較すると、月平均当直回数が増加となった診療科はなかったが、月平均当直回数はわずかな減少にとどまった。

図表 31 診療科別 常勤医師 1 人あたり月平均当直回数



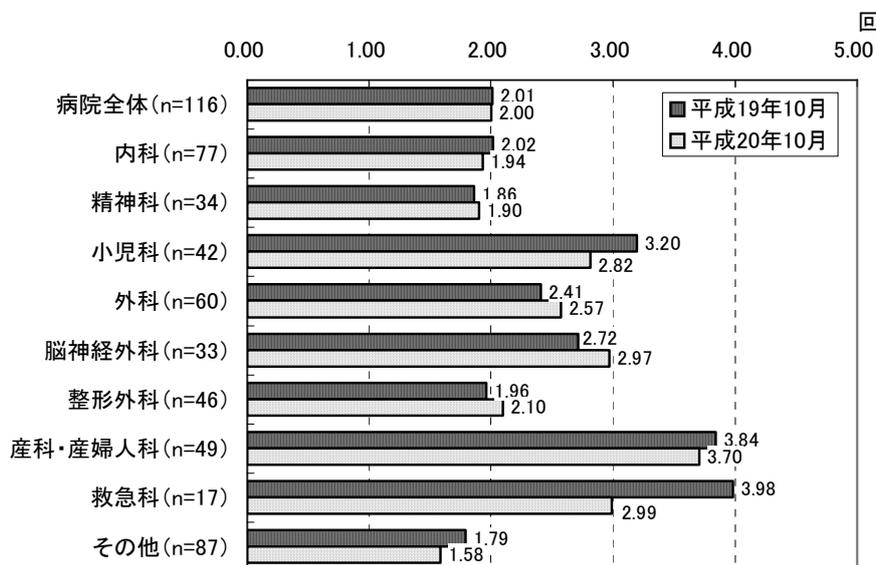
(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師の平均当直回数を対象とした。

・ n は施設数である。

平成 20 年 10 月における診療科別非常勤医師 1 人あたり月平均当直回数についてみると、「病院全体」では 2.00 回、「内科」では 1.94 回、「精神科」では 1.90 回、「小児科」では 2.82 回、「外科」では 2.57 回、「脳神経外科」では 2.97 回、「整形外科」では 2.10 回、「産科・産婦人科」では 3.70 回、「救急科」では 2.99 回、「その他」では 1.58 回であった。

多くの診療科では平成 19 年 10 月と 20 年 10 月の間に急激な増減はみられないが、「救急科」においては平成 19 年と比較して月平均約 1 回の減少となった。この他、「小児科」でも月平均当直回数は減少している。平成 19 年 10 月と比較して増加したのは「脳神経外科」（増加分は 0.25 回）、「外科」（同 0.16 回）、「整形外科」（0.14 回）、「精神科」（0.04 回）であった。

図表 32 診療科別 非常勤医師 1 人あたり月平均当直回数



(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師の平均当直回数を対象とした。

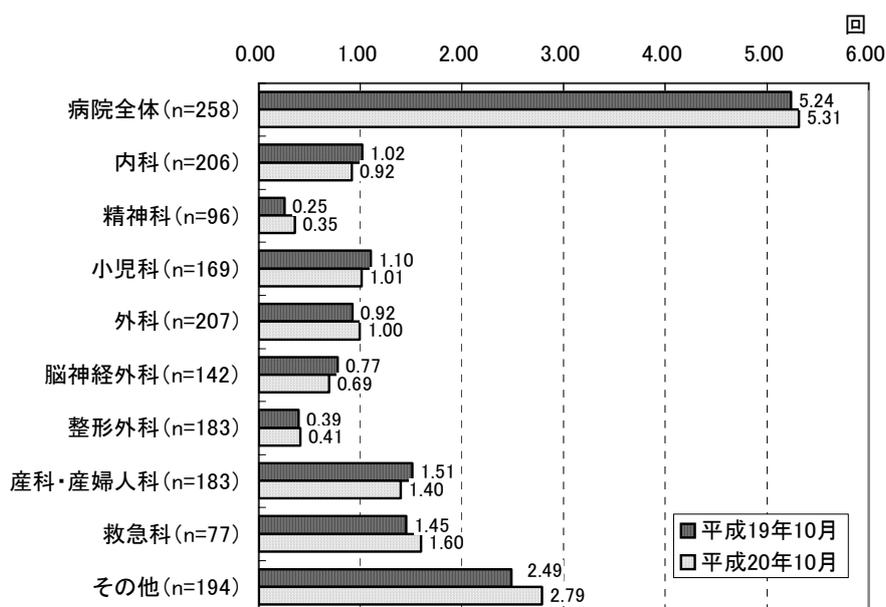
・ n は施設数である。

3) 連続当直合計回数

平成 20 年 10 月における診療科別 1 か月あたり連続当直合計回数（常勤医師）についてみると、「病院全体」では 5.31 回、「内科」では 0.92 回、「精神科」では 0.35 回、「小児科」では 1.01 回、「外科」では 1.00 回、「脳神経外科」では 0.69 回、「整形外科」では 0.41 回、「産科・産婦人科」では 1.40 回、「救急科」では 1.60 回、「その他」では 2.79 回であった。最も多かったのは「救急科」で、次いで「産科・産婦人科」、「小児科」、「外科」となり、これらの診療科では連続当直合計回数の平均は 1 回を超えた。

平成 19 年 10 月と比較して増加となった診療科は「救急科」（増加分 0.25 回）、「精神科」（同 0.1 回）、「外科」（同 0.08 回）、「整形外科」（同 0.02 回）であったが、いずれも微増であった。

図表 33 診療科別 1 か月あたり連続当直合計回数（常勤医師）

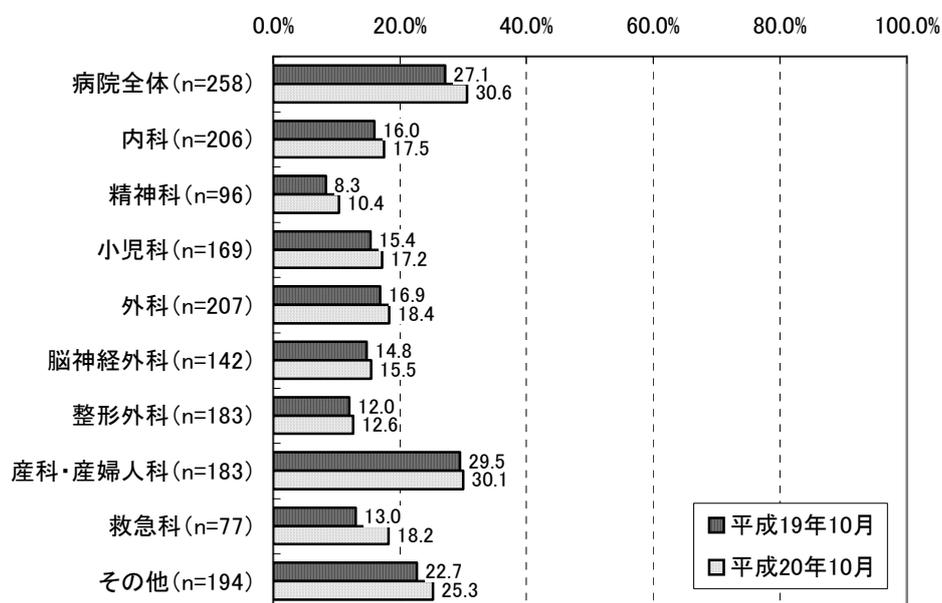


(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師全体の連続当直の合計回数を対象とした。
 ・ n は施設数である。

平成 20 年 10 月における診療科別連続当直実施施設の割合（常勤医師）についてみると、「病院全体」では 30.6%、「内科」では 17.5%、「精神科」では 10.4%、「小児科」では 17.2%、「外科」では 18.4%、「脳神経外科」では 15.5%、「整形外科」では 12.6%、「産科・産婦人科」では 30.1%、「救急科」では 18.2%、「その他」では 25.3%であった。連続当直実施施設の割合が最も高いのは「産科・産婦人科」であり、次は「その他」を除くと、「外科」、「救急科」、「内科」、「小児科」であった。

平成 19 年 10 月と比較すると、すべての診療科で連続当直実施施設の割合が高くなった。特に、「救急科」では平成 19 年と比較して 5 ポイント以上高くなった。

図表 34 診療科別 連続当直実施施設の割合（常勤医師）



(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師の平均当直回数を対象とした。

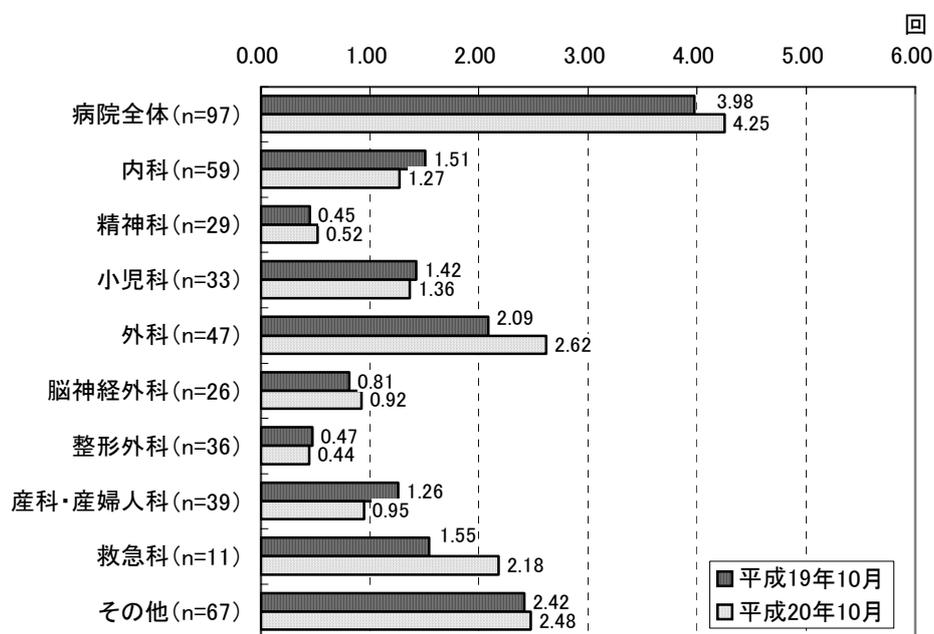
・ n は施設数である。

平成 20 年 10 月における診療科別 1 か月あたり連続当直合計回数（非常勤医師）についてみると、「病院全体」では 4.25 回、「内科」では 1.27 回、「精神科」では 0.52 回、「小児科」では 1.36 回、「外科」では 2.62 回、「脳神経外科」では 0.92 回、「整形外科」では 0.44 回、「産科又は産婦人科」では 0.95 回、「救急科」では 2.18 回、「その他」では 2.48 回であった。

連続当直合計回数が最も多いのは「外科」で、次は「その他」を除くと、「救急科」であり、これらの診療科では連続当直合計回数は 2 回を上回った。

平成 19 年 10 月と比較すると、「救急科」（増加分 0.63 回）、「外科」（同 0.53 回）、「脳神経外科」（同 0.11 回）、「精神科」（同 0.07 回）で増加となった。

図表 35 診療科別 1 か月あたり連続当直合計回数（非常勤医師）



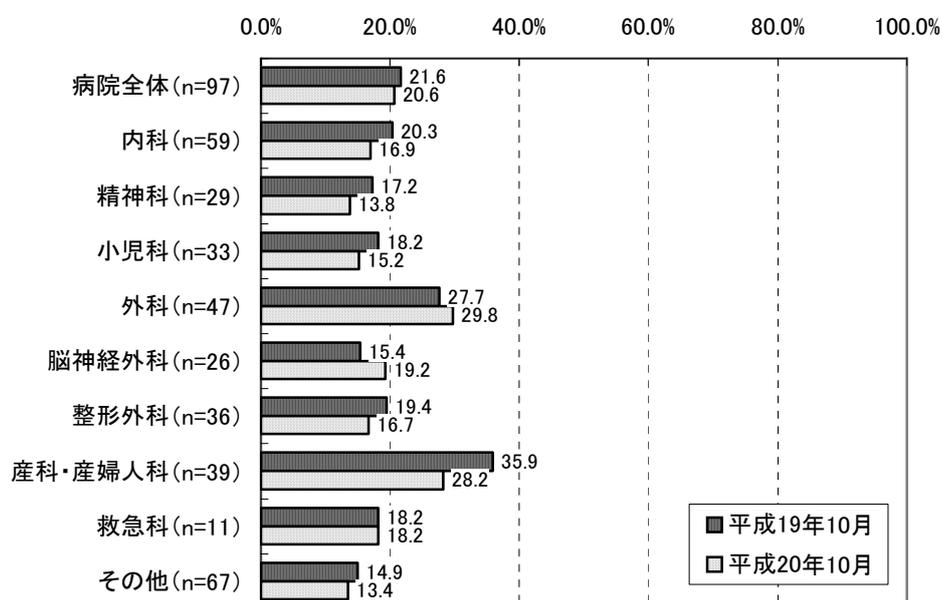
(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師全体の連続当直の合計回数を対象とした。

・ n は施設数である。

平成 20 年 10 月における診療科別連続当直実施施設の割合（非常勤医師）についてみると、「病院全体」では 20.6%、「内科」では 16.9%、「精神科」では 13.8%、「小児科」では 15.2%、「外科」では 29.8%、「脳神経外科」では 19.2%、「整形外科」では 16.7%、「産科・産婦人科」では 28.2%、「救急科」では 18.2%、「その他」では 13.4%であった。連続当直実施施設の割合が最も高いのは「外科」であり、次いで「産科・産婦人科」となった。

平成 19 年 10 月と比較すると、「外科」と「脳神経外科」では実施施設割合が増加したが、他の診療科では減少もしくは横這いとなった。

図表 36 診療科別 連続当直実施施設の割合（非常勤医師）



(注) ・平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月とも記載のあった診療科医師全体の連続当直の合計回数を対象とした。
 ・ n は施設数である。